

西国（さいごく）街道と中央区・葺合浜手

西国街道は、古代に山陽道と呼ばれ、京の都と九州の大宰府を結ぶ主要幹線道路として発展し、近世には西国街道と呼ばれて西国と近畿地方を結ぶ道としてにぎわいを見せていた。中央区でもこの山陽道・西国街道が区内の真ん中を東西に走り、こうした道の発展とともに中央区の歴史が築かれてきたと言っても過言ではない。

それでは、この西国街道が中央区内のどこを走っていたのであろうか。そもそも、京都を出発した西国街道は、現在の国道 171 号のルートを平行・重複して走り、西宮の札場（ふだば）筋で現在の国道 2 号と合流し、西へ向かった。この道は西宮市川西町と芦屋市打出（うちで）町の境で分岐し、そのまま内陸部を走る本街道と、海岸沿いの村々をつないで走る浜街道とに分かれたのである。この二つの道は中央区の三宮で合流し、一本の道となりさらに西へと進んでいったのである。葺合浜手地区はまさにこの西国街道の本街道と浜街道の二本の道が地域の東西を横断しているのである。

さて、葺合浜手地区でこの二本の街道が通っていたところを再現してみよう。まず、本街道は灘区の岩屋（阪神岩屋駅付近）から筒井町と脇浜町の間を西に行き、日暮通と吾妻通の間を走り、生田川の雲井橋を渡り、旭通と雲井通の間のあじさい通りを抜けて JR 三ノ宮駅構内を横切って、生田筋まで行き南に下がる。ただ、JR 三ノ宮駅のあたりは駅構内の建設によって、街道がどこを走っていたかはよくわからない。なお、脇ノ浜の一里塚が吾妻通 1 丁目と日暮通 1 丁目あたりにあったのではないかと思われる。次に浜街道は生田川の小野柄橋を渡り、小野柄通と御幸通の間を進み、三宮センター街を西へと進み、生田筋に当たることになる。さらに、西国街道の二つの街道、本街道と浜街道は生田筋で合流し、そして、再び一本になった西国街道は三宮神社の南の筋を走り、大丸前の交差点から元町通へと入り西へと向かっていた。

震災後、葺合浜手地区のまちづくりを行っていくうえで、この西国街道を一つの社会資源として地域の活性化に活用しており、この地区の本街道沿いにはこれまでに 4 カ所（春日野道・吾妻通・雲井通・あじさい通商店街入口）、地域の人々が中心になって、「旧西国街道」の道標と高札場を模した案内板を設置している。

西国（さいごく）街道と中央区・葺合浜手



あじさい通商店街入口・旧西国街道の碑



雲井通・旧西国街道の碑



吾妻通・旧西国街道の碑



春日野道・旧西国街道の碑

